

がん薬物療法部

スタッフ紹介



部長
たかやま こういち
高山 浩一

(副病院長、
呼吸器内科
診療部長)

副部長	ど い 俊文 (消化器内科学内講師)
医 員	かわち はやと 勇人 (呼吸器内科助教)
専任看護師	すがたに かずこ 和子
専任薬剤師	たぶち ゆうすけ 祐輔
	しみず ひろき 大生
	しかた もとつぐ 基嗣
	四方

私たちの業務

がん薬物療法部の中心的診療・業務は平成16年10月に開設された薬物療法センターでの化学療法の安全な施行・管理、レジメン管理及び臨床研究です。その他にもプロトコール委員会の開催や腫瘍診断治療カンファレンス (Cancer board) の開催、がん医療研修会 (がんプロフェッショナル養成センターとの共催) などがあります。

◆ 外来薬物療法センター

各診療科の処置室で実施されていた外来薬物療法を専門の薬物療法センターにおいて実施しています。専任の医師 (がん薬物療法専門医・指導医 1名、がん薬物療法専門医 1名、がん治療認定医 2名)、看護師 (がん化学療法看護認定看護師 1名)、薬剤師 (がん専門薬剤師 1名、外来がん治療認定薬剤師 2名) が常駐し、抗がん薬物投与の安全性確保を図っています。採血の優先的施行による待ち時間の短縮や電動リクライニングシートの導入などによって患者さまのQOLに配慮した医療サービスの提供を心掛けています。施行実績も年々伸びており、現在月間約1000例前後の薬物療法を行っております。平成30年3月より「永守記念最先端がん治療研究センター」の2階フロアに移転し、ベッド数も23床から30床に増床しており、待ち時間の短縮など、さらなるサービス向上が期待されます。

◆ がん薬物療法プロトコール管理

当院におけるがん薬物療法の標準化と抗がん薬物の適正使用を推進するために、がん薬物療法部スタッフを中心にプロトコール委員会を運営し、エビデンスレベルの高い治療が常に提供できるようプロトコールの管理を行っています。各診療科から申請されるレジメンは、医師、薬剤師、看護師で構成されるプロトコール委員会で、抗がん薬物の用法・用量、投与順序、投与経路、休薬期間が適切か、前投薬や補液などに問題はないかなども審議され、承認、条件付き承認、保留の判断がなされます。承認されたレジメンのみが電子カルテ上に腫瘍領域別に登録されるシステムとなっています。支持療法も含めて厳しく審査することで、病院全体のがん薬物療法の質の向上に努め、がん患者さんの副作用の軽減を図っています。

◆ Cancer board / がん医療研修会

各診療科で個別に対応することが難しい患者さんについては、治療方針や副作用のマネージメントなど診断・治療にかかわる各科医師が集まって検討するCancer boardを開催しています。若手医師の教育の場でもあり、多くの若手医師が参加し学習しています。当院は都道府県がん診療拠点病院に指定されており、さらなる充実を図っているところです。また、医師のみならずメディカルスタッフ (看護師・薬剤師など) が参加し、各領域のがん治療に対する理解を深めるため「がん医療研修会」を定期的に開催しています。

府立医大 がん薬物療法部 TEL 075-251-5430 (医員室)
外来薬物療法センター TEL 075-251-5010 (受付)